

みやぎ 地域ニュース

教育現場での医療的ケア

障害児支援 親が連携を



障害児の医療的ケアをめくり意見を交わす保護者と医師ら

障害児に対する教育現場での医療的ケアの在り方を考える「保護者の声を聞く会」が、仙台市青葉区の県立こども病院であった。県立養護学校の校医や巡回指導医の有志が主催し、保護者や医療関係者、教員ら約六十人が意見交換した。

県立養護学校では経管栄養の注入やたん吸引などの医療的ケアを必要とする児童生徒が増え、訪問看護師が対応。二〇〇四年度には六校が文部科学省のモデル指定を受け、看護師資格のある養護教諭がケアを始めた。モデル事業について、保護者は「子どもと一番かかわる担任にもケアを

医師、教員らと意見交換 仙台

改善求め行政に伝達

「事故時の対応に不安がある」などと訴え、未就学児の母親からは「地域の学校に通

わせたいが、方法が分からない」「保育所で受け入れてもらえない」といった悩みも出された。

医師側は「看護師の指導を受けた教師がケアにかかわる県もあるが、宮城は足踏み状態が続いている」と指摘。主催者の一人で県立病院機構宮城

病院(山元町)の池浩一郎医師は「子どものサポーターを増やすためにも親が連携し、意見表明してほしい」と話した。

集約した意見は県教委の養護学校医療的ケア運営会議などを通して、行政側に伝えるという。